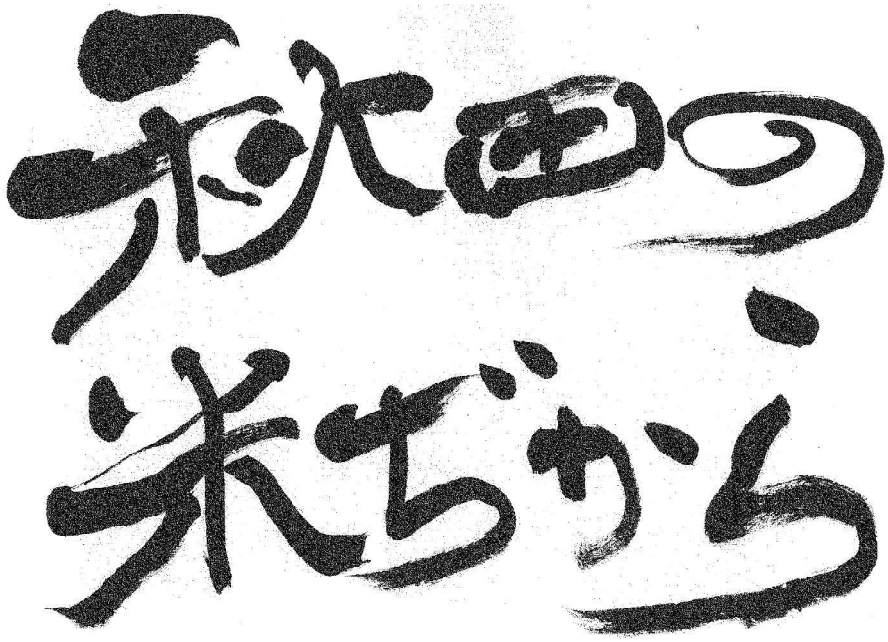
別冊資料２

秋田米生産・販売戦略(案)

～お米のオールラウンダーをめざして～



平成２９年　　月

秋田県農林水産部

目　　次

Ⅰ　策定の趣旨　・・・・・・1

Ⅱ　秋田米を巡る現状と課題
　1　販売の動向　・・・・・・3
　2　生産の動向　・・・・・・5
　3　ＳＷＯＴ分析　・・・・・・6

Ⅲ　秋田米の目指す方向
　1　目指す姿　・・・・・・7
　2　秋田米生産の概念図　・・・・・・7
　3　数値目標　・・・・・・8
　4　秋田米のポジショニング　・・・・・・9
　5　販路開拓の展開イメージ　・・・・・・11

Ⅳ　戦略の体系　・・・・・・12

Ⅴ　戦略の展開方向
　1　拡大が見込まれるマーケットへの対応　・・・・・・13
　2　米どころ秋田の強みを生かしたブランド力向上　・・・・・・15
　3　低コスト生産・流通体制の整備　・・・・・・17
　4　将来を見据えた米の高付加価値化と需要の創出　・・・・・・18

Ⅵ　県の施策の展開方向　・・・・・・20

Ⅶ　戦略の推進体制　・・・・・・21

Ⅷ　戦略の策定経過　・・・・・・22

　参考資料　・・・・・・23

Ⅰ　策定の趣旨

1　ねらい

本県は、広大な水田と豊かな水資源、稲作に適した気候条件、先人から引き継がれた営農技術を背景に、品種や栽培技術の開発・普及、良質米生産の実践、安定的な集荷販売体制の構築によって、我が国有数の米産地として発展してきました。

一方、農業就業人口の減少や担い手の高齢化が進行する中で、稲作農家の経営規模は総じて小さく、将来にわたって持続的に発展していくためには、ほ場の大区画化や農地集積、超低コスト生産技術の導入等により、地域農業を牽引する競争力の高い経営体の確保・育成が急務となっています。

また、国の主導による米の生産数量目標の配分は廃止され、平成30年産からは、各産地の主体的な判断に基づく米づくりが行われることになり、米の消費量が減少し続ける中にあって、これまで以上に産地間競争が激化することは確実です。

こうした状況を踏まえ、本戦略は、本県が消費者や実需者から選ばれる米産地となるよう、生産者・農業団体・行政が、課題や対応方向、目標を共有化し、販売を起点とした米づくりに取り組むための指針として策定するものです。

2　期　間

平成29年度から33年度までの５年間とします。

3　対象とする範囲

本戦略では、主食用米のほか、成長分野にある米（加工米飯・特定需要向け）を含めて「秋田米」と定義します。

4　これまでの取組

◇　**秋　田　米　販　売　戦　略（平成22年度策定）**

・　秋田米の市場シェアが年々低下し、販売不振～縮小再生産という悪循環に陥る中、生産数量目標をいかに獲得するかという問題意識のもと策定。

・　戦略の主な狙いは、全国的に米の在庫が増大し、米価が低迷する中にあって、適切な値段での早期売り切りと市場シェアの拡大。

◇　**秋田県農産物流通販売戦略（平成27年度策定）**

・　複合型生産構造への転換を加速化するとともに、これまでの流通構造を改め、マーケットインの視点による流通販売対策を強化するための指針として策定。

・　主食用米に関しては、従来からの早期売り切りや市場シェアの拡大に加え、こだわり商品から家庭向け、さらには中食・外食に至るまで、用途別の品揃えの充実や、新たな切り口での販売対策、輸出の取組を強化。

5　水田フル活用と米づくりに関する基本的な考え方

農地のほとんどを水田が占める本県においては、主食用米を中心として、加工用米や備蓄米、飼料用米等を取り入れた稲作を基幹として、大豆やそば等の土地利用型作物に、エダマメやネギ、アスパラガス等の収益性の高い園芸作物を組み合わせ、水田を適切に維持しつつ、そのフル活用を推進し、農業生産・農業所得の最大化を図っていくことが重要です。

また、米の消費量が減少傾向にある中で、本県農業が持続的に発展していくためには、米の産出額を維持しつつ、園芸や畜産などを拡大し、米を基幹とした複合型生産構造に転換していく必要があります。

米については、平成30年以降、行政による主食用米の数量管理が廃止されることから、実需との結びつきを強化して主食用米の需要を積み上げ、それに基づいた生産に転換していくことが重要です。

この戦略は、主食用米を中心とした「秋田米」の競争力を強化し、安定的な需要を確保するための取組を促すものであります。

《平成30年以降の米づくり》

外食や中食等の実需者側からは、産地を囲い込む動きが加速化していることや、各地で新たな品種銘柄のデビューが続くなど、これまで以上に激化する産地間競争に当たり、次の基本的な考え方により対応しようとするものである。

◇　米の主産県として、国内の産地間競争に打ち勝つため、「販売を起点とした米づくり」を推進する。

◇　農業者・集荷業者は、売り先の見込みがない過剰生産は行わない一方で、実需者からの要請に的確に対応した生産・供給を行う。

◇　集荷業者は、「販売を起点とした米づくり」を担うメインプレイヤーとして、売り先の確保と、農業者や地域協議会と連携した計画的な生産を行う。

◇　県農業再生協議会では、当面の間、秋田米の需要動向を踏まえ、「生産の目安」を提示するとともに、生産現場が生産量を判断できる環境づくりを進める。

◇　地域農業再生協議会では、適宜、市町村段階の「生産の目安」を提示するなどにより、地域の集荷業者と連携しながら、生産現場の判断をサポートする。

Ⅱ　秋田米を巡る現状と課題

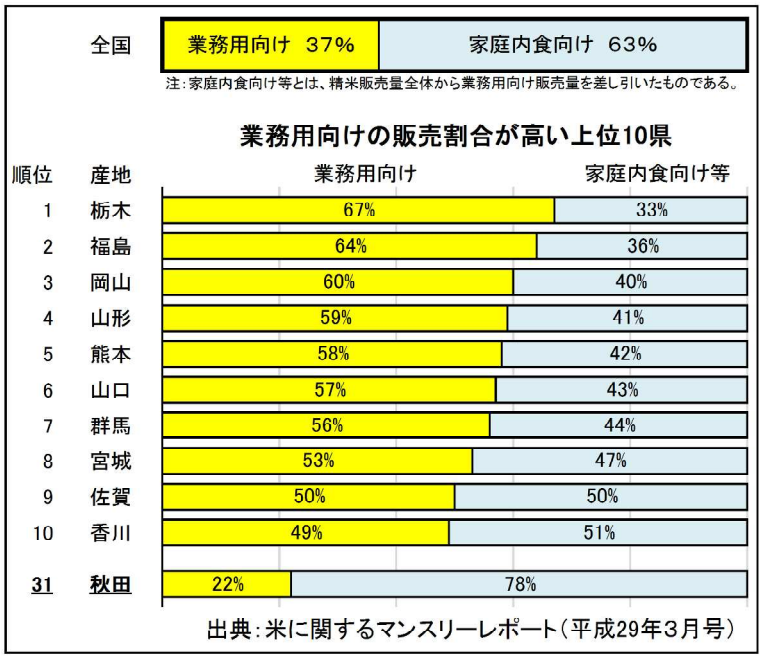
1　販売の動向

（１）業務用ニーズへの対応

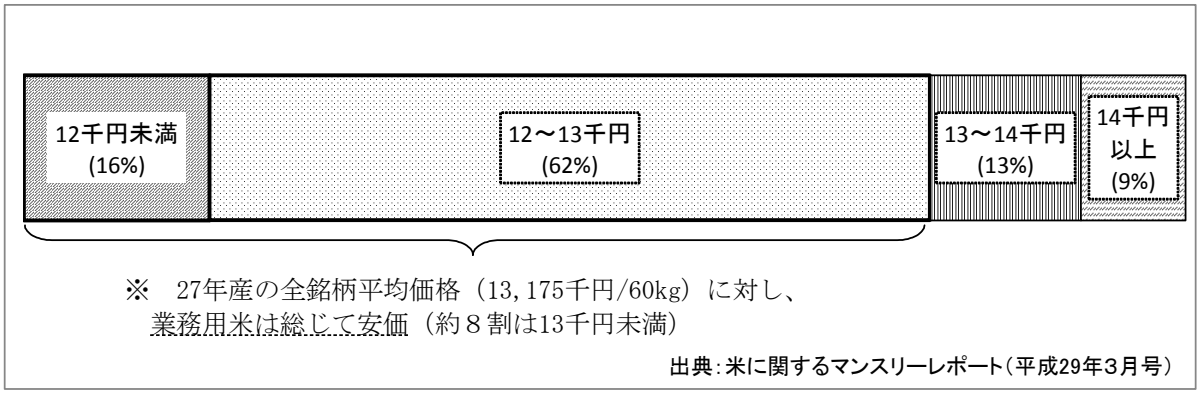
・　あきたこまちの作付割合は７割を超え、そのロット（32万トン）は、他産地にはない「強み」となっています。

・　一方、ライフスタイルの変化により、増加する業務需要への対応が十分ではなく、マーケットの変化に的確に対応していく必要があります。

図－１　主食用米の販売先割合（全国）



図－２　業務用米の価格帯別割合（27年産）



（２）秋田米ブランドの再構築

・　全国的に新品種の誕生が相次ぎ、産地間競争が激化する中、品質と物量、知名度を兼ね備えた「あきたこまち」を中心に、多彩なオリジナル品種等を組み合わせ、秋田米のブランド力を強化するとともに、秋田米のプライスリーダーとなる新たな極良食味品種を開発していく必要があります。

表－１　主要銘柄別の相対取引価格の推移

（単位：円/60kg）

産地銘柄	H19年産	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
北海道　ゆめぴりか							17,512	15,870	16,210	16,478
宮城県　ひとめぼれ	13,743	15,056	14,526	12,044	14,689	16,278	14,278	11,564	12,821	13,942
秋田県　あきたこまち	**13,849**	**15,097**	**14,603**	**12,457**	**15,315**	**16,874**	**14,034**	**11,620**	**12,844**	**14,176**
山形県　つや姫							16,997	16,758	17,953	17,866
栃木県　コシヒカリ	13,765	15,056	14,235	12,680	15,558	16,659	13,792	11,583	12,907	13,824
新潟県　コシヒカリ(一般)	16,390	17,166	16,286	15,653	18,399	18,302	16,697	15,451	16,186	16,182
新潟県　コシヒカリ(魚沼)	23,980	24,991	22,866	21,685	23,432	23,559	21,125	19,480	20,439	20,397
全銘柄加重平均	14,164	15,146	14,470	12,711	15,215	16,501	14,341	11,967	13,175	14,302

出典：米穀の取引に関する報告（農林水産省）　※H28年産はH29.7までの価格

（３）特定需要等への対応

・　特定名称酒の需要は増加傾向にあることから、「秋田県酒米生産流通対策協議会」において、引き続き、県内蔵元への安定供給を推進するとともに、品質向上に向けた取組の強化や、県外メーカーへの販路拡大を図る必要があります。

・　また、県オリジナル品種等が有する機能性や加工適性（寿司・ピラフなど）の訴求により、今後成長が見込まれる特定需要の開拓に向けた取組も必要です。

・　輸出については、「あきたこまち」の知名度を生かして高級米市場での定着を図りつつ、よりマーケットの大きい日本食レストラン等の業務用需要の開拓にも取り組んでいく必要があります。

（４）過剰作付の影響

・　平成28年産米の相対取引価格の全国平均は14,342円/60kgと、前年産に比べ９％上昇していますが、深掘りの産地は全国平均を上回る上昇率（10～12％）であるのに対し、過剰作付の産地は３～８％に留まっております。
　このことは、需要に応じた生産の重要性を示唆しています。

【28年産】

（単位：ha）

		全国	深掘りの産地 青森	深掘りの産地 秋田	深掘りの産地 山形	過剰作付の産地 茨城	過剰作付の産地 千葉	過剰作付の産地 新潟
主食用米作付面積	①	1,381,000	36,800	69,300	56,800	67,200	53,900	101,500
生産数量目標(面積換算)	②	1,403,000	41,079	72,152	57,275	63,698	45,582	97,076
深掘り率	①/②	▲ 2%	▲ 10%	▲ 4%	▲ 1%	＋5%	＋18%	＋5%
作況指数		103	104	104	103	99	102	108

（単位：円/玄米60kg(税込)）

相対取引価格		全銘柄平均	青森 まつしぐら	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	千葉 コシヒカリ	新潟一般 コシヒカリ
27年産(年産平均)	③	13,175	11,571	12,844	12,445	12,644	12,530	16,186
28年産(28年9月)	④	14,342	12,988	14,151	13,842	13,302	13,593	16,599
上昇率(前年比)	④/③	＋9%	＋12%	＋10%	＋11%	＋5%	＋8%	＋3%

全国平均を上回る上昇率　　全国平均を下回る上昇率

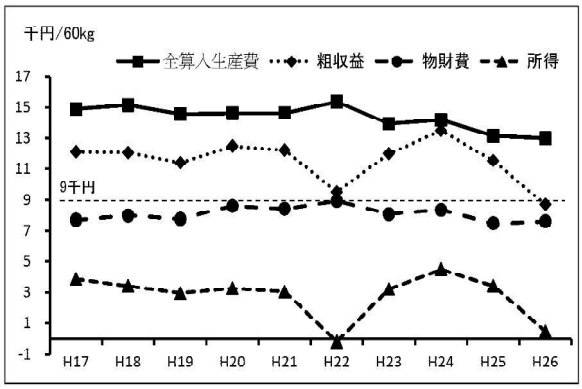
出典：米に関するマンスリーレポート（平成29年３月号）

2　生産の動向

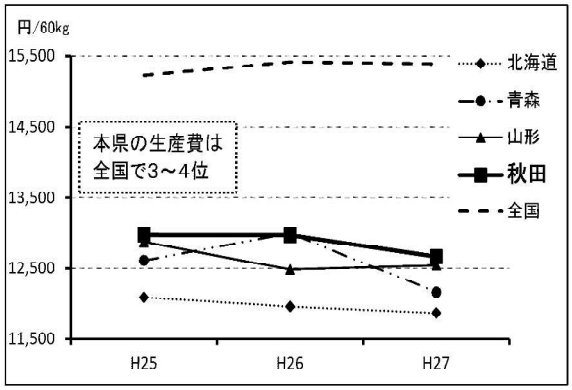
（１）生産費の推移

・　本県の米の生産費の低さは、全国で３～４位という水準にありますが、需要が伸びている業務用米で競争に打ち勝つためには、より一層のコスト縮減を図る必要があります。

図－３　米60kg当りの収益性の推移



図－４　全算入生産費の全国比較



出典：農業経営統計調査（米生産費統計）

（２）種子の安定供給

・　種子は秋田米を支える基盤であることから、県オリジナル品種等の主要品種については、引き続き、県の責務として、原原種や原種の計画生産をはじめ、優良種子の安定供給に取り組んでいく必要があります。

（３）将来を見据えた取組

・　消費者の安全・安心志向に対応した「あきたｅｃｏらいす」やＧＡＰの普及、新たな機能性に着目した品種の開発、更には、生産者と消費者との交流など、将来を見据えた取組も行っていく必要があります。

◆　ドローンによるリモートセンシング技術の実証

③　ＳＷＯＴ分析

	機　　会	脅　　威
外部環境	・実需による産地の囲い込みの動き ・加工食品や中食・外食の需要拡大 ・消費者の健康志向の高まり ・特定名称酒の消費量の増加	・米の消費減に伴う産地間競争の激化 ・遠隔地ゆえの物流費の掛かり増し ・他県から続々と新品種がデビュー
	強　　み	**弱　　み**
内部環境	・米どころとしての強いイメージ ・あきたこまちの高い知名度 ・大区画ほ場など生産基盤の整備 ・多彩な品種ラインナップ	・作付の大部分（７割）があきたこまち ・大ロットゆえ品質にバラツキ ・良食味品種の開発に立ち遅れ ・米加工食品の製造拠点の少なさ

◆　大区画ほ場での稲刈り作業

Ⅲ　秋田米の目指す方向

1　目指す姿

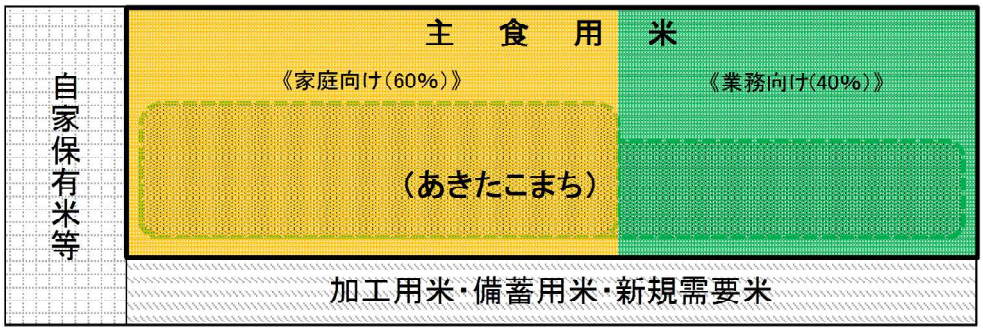
秋田はお米のオールラウンダー

様々なニーズに的確に対応できる産地	高品質・低コストで競争力の高い米づくりの展開
《現状》 ➢ 米どころとしての強いイメージ ➢ 全国トップレベルのあきたこまちのブランド力 ➢ 物流を含めて、業務需要への対応が不十分 ➢ 極良食味品種の開発に立ち遅れ、商品提案が弱い	**《現状》** ➢ 多彩な品種ラインナップ ➢ 全国的にも高い水田整備率 ➢ 低価格帯の業務用米でも再生産が可能な低コスト生産の確立・普及が課題 ➢ 経営改善・労働効率化への対応が不十分

2　秋田米生産の概念図

【平成27年度】

【平成33年度】



3　数値目標

達成指標（KGI）	現状（H27）	目標（H33）
全国に占める秋田米のシェア　（%）	5.47	5.66

※1　現状値はH23～27までの5年平均

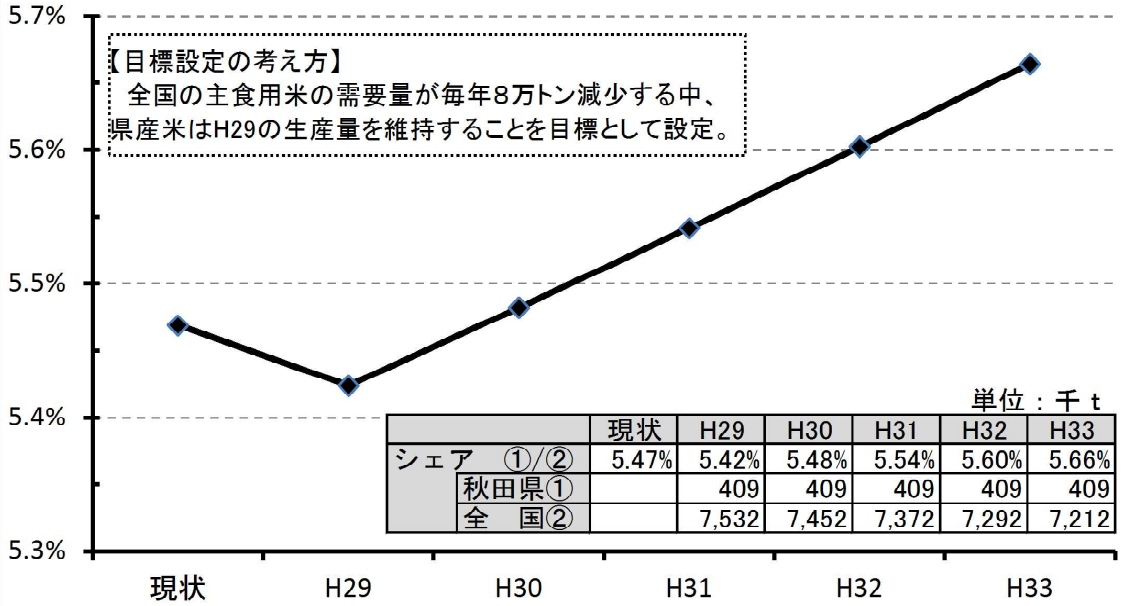
《KGIを達成するためのプロセス》

KPI	現状（H27）	目標（H33）
業務用米のシェア　（%）	22	40
米の生産費（※2）　（円/玄米60kg）	10,500	9,000
輸出取引ルートの確立・拡大件数　（件）	－	5
プレミアム規格米の拡大　（千t）	28	32
GAP（水稲）に取り組むJA数	8	全JA　15

※2　現状値は5ha以上の階層の推定値

《達成指標（ＫＧＩ）に係る目標達成の考え方》

図－5　秋田米の需要量シェア



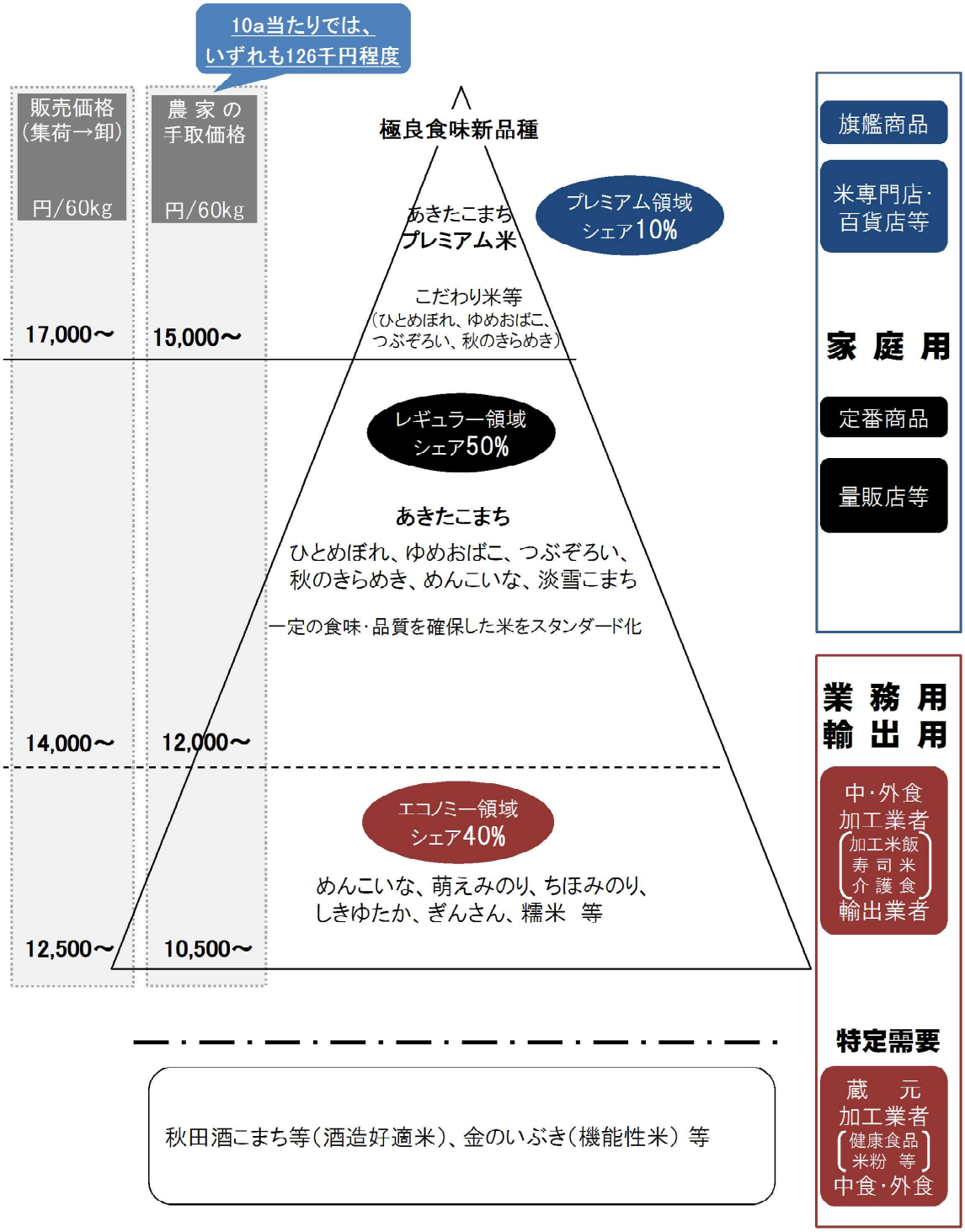
単位：千ｔ

		現状	H29	H30	H31	H32	H33
シェア　①/②		5.47%	5.42%	5.48%	5.54%	5.60%	5.66%
	秋田県①		409	409	409	409	409
	全　国②		7,532	7,452	7,372	7,292	7,212

※　現状はH23～27までの5年平均（5中3）

4　秋田米のポジショニング

品質・ロット・知名度に優れた「あきたこまち」を中心に据え、多彩な品種ラインナップで重層的に需要を獲得



Ⅰ 秋田米をリードするこだわりの高付加価値米づくり

～ ストーリー性に味や食感が付加された
新たな商品開発 ～

家庭用（差別化）

区　分：プレミアム
シェア：10%程度
収　量：510kg/10a～
単　価：15,000円/60kg～

- 極良食味米新品種のデビュー対策
- 食味や品質にこだわったあきたこまちのプレミアム商品づくりの推進
- プレミアム規格の区分集荷体制の推進

Ⅱ 食味を重視した米づくり

～ 品質・食味の底上げによる
秋田米の評価向上と販売シェアの拡大 ～

家庭用・業務用

区　分：レギュラー
シェア：50%程度
収　量：570～630kg/10a
単　価：12,000円/60kg～

- 食味向上栽培技術の実践
- あきたecoらいす（減農薬）以上の取組拡大
- 粒径や食味等に基づく区分集荷等により、きめ細やかな販売対応

Ⅲ 業務用米に対応できる低コスト・高収量の米づくり

～ 低コスト技術を組合せた
コスト削減による業務用米生産の拡大 ～

業務用・輸出用

区　分：エコノミー
シェア：40%程度
収　量：720kg/10a ～
単　価：10,500円/60kg～

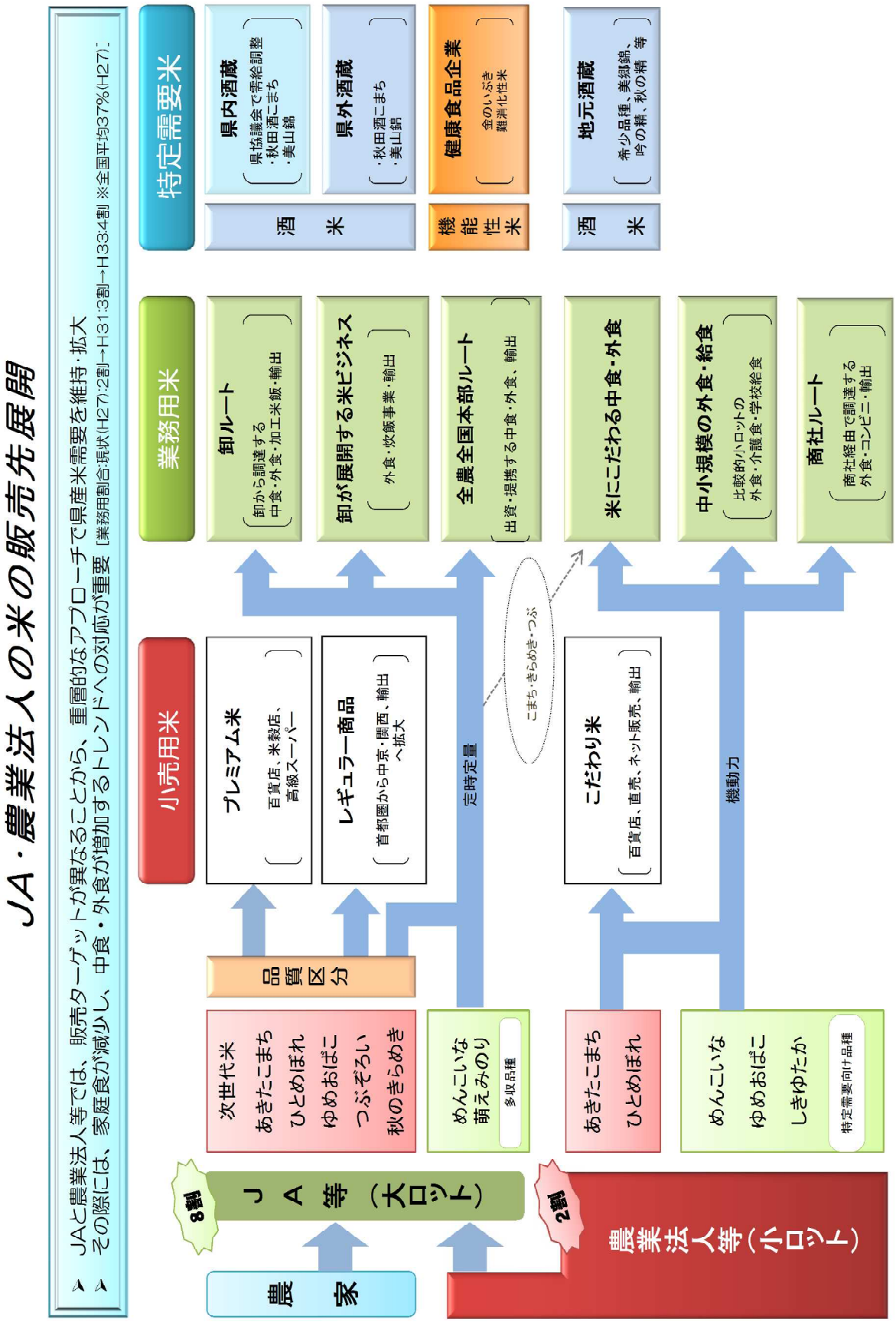
- 多彩なオリジナル品種等を活用し、業務用や輸出向けに対応できる産地の育成
- 多収性品種と低コスト技術の組合せ、ICT活用、法人連携等によるコスト削減
- 業務用米の契約栽培など、販売力強化に取り組む集荷団体、農業法人等の支援
- 有望な民間・他県育成品種等の積極的な活用

Ⅳ 特定需要に対応した米づくり

～ 酒米など特定の需要が見込まれるマーケットへの販路開拓 ～

- 酒米の需給計画に応じた供給体制の維持、契約栽培の推進、県外への販路拡大
- 従来にない新たな形質を持つ機能性米の開発と需要拡大
- 酒米や新形質米など、特定需要米の契約栽培に取り組む部会等への支援

5 販路開拓の展開イメージ



Ⅳ　戦略の体系

戦　略	取 組 の 方 向
1　拡大が見込まれるマーケットへの対応	(1)高まる業務用需要への対応
	(2)新たな受け皿としての海外市場の開拓
	(3)酒米など特定需要に対する取組の強化
	(4)販路の拡大と安定的な取引の推進
2　米どころ秋田の強みを生かしたブランド力向上	(1)秋田米のブランド力の強化
	(2)極良食味品種の開発・デビュー対策
3　低コスト生産・流通体制の整備	(1)低コスト生産技術体系の確立・普及
	(2)生産資材・機械・流通コストの低減
	(3)生産を下支えする種子・品種対策
4　将来を見据えた米の高付加価値化と需要の創出	(1)消費者に訴求する多様な米づくりの推進
	(2)「ごはんの日」の普及等による秋田米の消費拡大

Ⅴ　戦略の展開方向

1　拡大が見込まれるマーケットへの対応

「あきたこまち」を中心に多彩な品種ラインナップで、中食・外食等の業務用から、日本酒や加工米飯、海外市場など、今後成長が見込まれるマーケットの獲得に向け、実需の多様なニーズに対応します。

（１）高まる業務用需要への対応

ア　実需者のニーズに対応した米の供給

・　「あきたこまち」を始めとする多彩な品種ラインナップで、外食事業者など実需者の用途に対応した米を供給します。
　また、国や他県、民間の育成品種についても、実需者ニーズや栽培適性を踏まえ、柔軟に対応します。　**《集荷団体等》**

・　県オリジナル品種に係る業務用適性や特徴（炊き増え、米飯粒の食味・食感、米飯物性や色調の経時変化 等）を取りまとめ、実需者へ商品アピールします。
《県》

イ　銘柄を訴求する業務用米への対応

・　良食味の「あきたこまち」や「ひとめぼれ」、県オリジナル品種（ゆめおばこ、つぶぞろい、秋のきらめき）の区分集荷により、実需者の求める銘柄や品質に対応し、販路を開拓します。　**《集荷団体等》**

ウ　価格を訴求する業務用米への対応

・　多収性の県オリジナル品種（めんこいな等）や、国や民間が育成した品種により、実需者の求める価格に対応し、販路を開拓します。　**《集荷団体等》**

（２）新たな受け皿としての海外市場の開拓

ア　高級米市場での需要確保と業務用需要の開拓

・　香港、シンガポールなど、日本産米が定着している市場では、知名度の高い「あきたこまち」で一定の需要を確保するとともに、よりマーケットの大きい日本食レストラン等の業務用需要への参入を図ります。**《輸出業者・集荷団体・県》**

・　マレーシアやベトナム、ロシアなど、今後成長が見込まれる国では、マーケティングリサーチや現地企業とのパイプづくりを通じてニーズを把握し、まずは高所得者向けの高級米での地位を築きます。　**《輸出業者・集荷団体・県》**

イ　多様なチャネルからの輸出ルートの構築

・　農業法人や集荷団体による主体的な取組はもとより、ＪＡ全農全国本部の取組とのタイアップや、海外展開する外食や駐在員を多く抱える企業など、幅広い企業との連携により、積極的な需要開拓に努めます。**《農業法人・集荷団体・県》**

・　輸出相手国での競合に打ち勝つため、グローバルＧＡＰ等の第三者認証の取得を促進するとともに、包装米飯やレトルトおかゆ、日本酒など幅広い形態での輸出を推進します。　《県・集荷団体》

（３）酒米など特定需要に対する取組の強化

ア　酒米の生産振興と販路拡大

・　県内の蔵元に対して酒米を安定的に供給するため、県酒米生産流通対策協議会（以下「酒米協議会」）において、需給調整を行うとともに、酒造適性の高い酒米生産に向け、品質基準や栽培指針を策定します。《酒米協議会・集荷団体・県》

・　併せて、現在育成中の新品種や「ぎんさん」についても、「秋田酒こまち」のように、産地と蔵元との契約ルールづくりを進めるほか、県内蔵元の需要を満たした上で、県外への販路拡大を推進します。　《酒米協議会・集荷団体・県》

・　県酒造組合との連携により、酒造好適米品種の開発からオリジナル酵母を活用した商品づくり、海外を含めたプロモーションの展開により、県産清酒の需要拡大を通じて酒米の生産拡大を図ります。　《県酒造組合・県》

イ　特定需要に対応した米づくり

・　健康食品メーカー等と連携し、豊富なＧＡＢＡを有する巨大胚芽米の活用や介護向け「スマイルケア食品」の開発、ノングルテンの特性を生かした米粉の利用促進など、機能性の観点からも米の需要を開拓します。　《県》

（４）販路の拡大と安定的な取引の推進

ア　販路拡大に向けた取組の強化

・　従来からの取引先との連携を強化し、実需者とより固く結びつくことにより、取引の拡大と安定化を図るとともに、新たな販路開拓に向けたＪＡや農業法人等の主体的な取組を促進します。　《集荷団体・農業法人・県》

・　商談会や企業訪問等を通じて、中食・外食や加工米飯、酒米など成長が見込まれる分野におけるトレンドやニーズの把握に努めるとともに、実需者と生産者等のマッチングを推進し、ロットの大きいものについては、生産者等の組織化を図るなど、実需による産地囲い込みの動きに対応します。

《集荷団体・農業法人・県》

イ　実需と結びついた安定的な取引の推進

・　播種前契約や複数年契約を推進し、生産・供給の安定化に努めるとともに、先物取引の動向にも注視し、導入を検討します。　《集荷団体・県》

2　米どころ秋田の強みを生かしたブランド力向上

秋田米の主力である「あきたこまち」について、レギュラー領域の品質の底上げを図りつつ、食味等にこだわったプレミアム商品づくりを推進するとともに、秋田米のプライスリーダーとなる極良食味品種の開発を進めます。

（１）秋田米のブランド力の強化

ア　「あきたこまち」のブランド力の向上

・　「あきたこまち」のロットの大きさや品質の高さ、知名度を生かし、プレミアム商品づくりを進めるとともに、一層の高品質化を図りながら、量販店等に不可欠なアイテムとして、需要に応じた安定供給を推進します。　《集荷団体》

・　プレミアム商品づくりに当たっては、食味や整粒歩合等による区分集荷を推進します。　《集荷団体》

・　「高品質・良食味米安定生産マニュアル」に基づく技術の徹底や、ＩＣＴ等を活用した水管理・ほ場管理により、「あきたこまち」の品質・食味のバラツキを解消し、商品力の向上を図ります。　《集荷団体・県》

イ　県オリジナル品種等による商品バラエティの確保

・　「ひとめぼれ」や県オリジナル品種（ゆめおばこ、つぶぞろい、秋のきらめき）の特徴を生かし、区分集荷によるプレミアム商品づくりを進めるとともに、それぞれの個性を生かしながら、小売から業務用まで販売促進活動を展開します。　《集荷団体・県》

ウ　外部評価の活用や企業との連携等

・　実需者や卸売業者の意見に加え、(一財)日本穀物検定協会による「食味ランキング」等の外部評価も活用し、秋田米に対するイメージの向上を図ります。　《集荷団体・県》

・　中食・外食事業者や調理器具メーカー、大手電鉄会社等、幅広い企業との連携によるプロモーションを通じ、秋田米の美味しさと、それを育む気候・風土や生産者をアピールし、産地の訴求力を高めます。　《集荷団体・県》

・　関西など販売量が少ないエリアにおいて、多彩な品種ラインナップで秋田米の魅力を発信し、認知度の向上と販路拡大を図ります。　《集荷団体・県》

（２）極良食味品種の開発・デビュー対策

ア　極良食味品種の開発

・　「コシヒカリ」を超える食味を備え、秋田米のプライスリーダーとなるシンボリックな品種を育成し、平成32年にプレデビュー、34年からの本格生産を目指します。　《県》

イ　極良食味品種のデビュー対策

・　極良食味品種の品種登録申請に目途が立った段階で、「新品種ブランド化戦略本部」（仮称）を設置し、総合的な生産・販売対策を展開します。　《県》

・　生産対策については、高い品質と食味を維持し、市場評価を高めるため、栽培マニュアルの策定や品質基準の設定、産地・生産者の絞り込み、区分集荷等の対策を講じます。　《県・集荷団体》

・　販売対策については、マーケティングリサーチのもと、販売数量や想定価格、販売ターゲットを明らかにし、イメージ戦略と併せ、実需者と連携しながら実売に結びつくプロモーションを展開します。　《集荷団体、県》

（ＪＡ全農あきた）

（東成瀬村）

（ＪＡうご）

◆　各地のこだわり米

３　低コスト生産・流通体制の整備

プレミアム商品からレギュラー、エコノミーに至るまで、秋田米が産地間競争に打ち勝ち、生産者が一定の所得を確保できるよう、多収性品種の導入や、高密度播種育苗等の複数技術の組み合わせにより、高品質・低コスト生産技術体系の確立を図ります。

（１）低コスト生産技術体系の確立・普及

ア　再生産可能な低コスト稲作技術の確立・普及

・　多収性品種の導入、直播や高密度播種育苗による疎植、ＩＣＴを活用した新技術等の組み合わせにより、低価格帯でも再生産が可能な低コスト技術体系を確立します。　《県》

・　現地実証データに基づき、経営規模や選択技術、品種などの組み合わせにより、生産コストを試算できるソフトを開発し、農業法人等の経営スタイルに応じた低コスト技術の普及を図ります。　《県》

（２）生産資材・機械・流通コストの低減

ア　資材低減対策をパッケージで農業法人等へ導入

・　ＪＡグループと連携し、低価格帯の業務用米や輸出用米の生産に取り組む農業法人等に対し、低コスト技術と資材費等の低減対策（肥料・農薬の大口割引、農機のリース導入等）をパッケージにして導入を推進します。

《県、ＪＡ全農あきた、ＪＡ》

イ　流通コストの削減

・　カントリーエレベーターの優先利用や大口割引制度の導入、フレコンバッグの活用、更には、農業法人等の連携による保管・配送の共同化など、幅広い視点から流通コストの削減に向けた検討を行います。　《ＪＡ全農あきた、ＪＡ、県》

（３）生産を下支えする種子・品種対策

ア　主要農作物種子法の廃止を踏まえた優良種子の安定供給

・　主要農作物（水稲・大豆・麦）の種子生産は、優良な農作物を生産するための基盤であることから、原原種から種子に至る一連の生産・供給を円滑に進めるため、これらの需給調整を協議する新たな組織を設置します。　《県》

・　秋田米の主要品種については、従来どおり、原原種や原種の生産は県が行うほか、指定採種ほの設定や種子生産は、県産米改良協会が行います。

《県、産米改良協会》

イ　国や民間の育成品種の積極的な活用

・　実需から国や他県、民間が育成した品種の需要がある場合は、県内での栽培適性を踏まえつつ、積極的に対応します。　《県》

4　将来を見据えた米の高付加価値化と需要の創出

消費者の安全・安心志向は、ますます高まることが予想されることから、ＪＡＳ有機栽培や特別栽培、「あきたｅｃｏらいす※」など、環境に優しく、産地イメージを高め、付加価値に結びつく取組を推進します。

また、健康食品メーカー等と連携し、今後、需要の拡大が見込まれる新たな機能性米の開発や需要の創出に向けた取組も進めます。

※　慣行栽培よりも農薬の使用回数を半減した栽培方法

（１）消費者に訴求する多様な米づくりの推進

ア　有機・特栽米等の生産拡大やＧＡＰの普及

・　消費者が求める安全・安心に対応しつつ、安定的な取引となるよう、米穀店との契約栽培や、量販店のＰＢ商品への採用等を推進します。　《集荷団体》

・　「あきたｅｃｏらいす」については、農薬費の削減により低コスト化にもつながることから、秋田米のスタンダードになるよう、モデルＪＡを指定するなど取組の拡大を図ります。　《集荷団体・県》

・　また、安全な農産物を生産するための管理手法であるＧＡＰについては、経営改善や労働の効率化の観点からも、取組の拡大を図ります。　《集荷団体・県》

イ　中山間地域の立地条件を生かした米づくりの推進

・　「守りたい秋田の里地里山５０」認定地域における地域づくり活動（商品開発や交流等）や、首都圏でのプロモーション等により、地域の特徴を生かした多様な米づくりをアピールします。　《県》

・　大手電鉄会社と連携し、社員の農業体験や産地交流、生産者などによる店頭販売等を内容とした「あきたｅｃｏらいすプロジェクト」を引き続き推進します。　《ＪＡ全農あきた・県》

ウ　食のトレンドを踏まえた機能性米の開発や需要の創出

・　米粉は、液状の介護食品としての利用が可能なことから、秋田発の「スマイルケア食」の開発に積極的に活用します。　《県》

・　現在、開発を進めている機能性品種（難消化性デンプンにより大腸環境の改善やカロリーオフの効果を期待）については、効果や加工特性を確認しながら、需要の創出に向けた取組を推進します。　《県》

・　他県や民間で育種された機能性米についても、健康食品メーカーや中食・外食事業者と連携し、具体的な活用や商品化を検討します。　《県、集荷団体》

（２）「ごはんの日」の普及などによる秋田米の消費拡大

ア　「ごはんの日」の普及

・　平成28年に制定した「ごはんの日」（毎月第３日曜日）を広く周知し、米産県として、「ごはん食」を中心とした健康的な食生活と、秋田米のより一層の消費拡大を図ります。　《秋田県ごはん食推進会議》

イ　消費者向けＰＲ活動の充実

・　若者を対象に「ごはん食」への関心を高め、米を気軽に食べるきっかけとするため、楽しみながら秋田米の美味しさを感じてもらえる「ごはんの友選手権」を開催します。　《秋田県ごはん食推進会議》

・　飲食業や観光産業等と連携し、美味しい秋田米の提供・販売の場を確保することにより、高品質・良食味な秋田米として、県内外に強力にアピールします。　《集荷団体・県》

◆　「守りたい秋田の里地里山５０」認定地域における交流活動

Ⅵ　県の施策の展開方向

- 新たな県政運営指針として、平成30年度から33年度までを期間とする「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」がスタートします。
- このプランの下で「戦略的な秋田米の生産・販売」に向け、生産者や集荷団体等が販路拡大にチャレンジし、競争に勝てるような環境を整備する観点から、施策を展開してまいります。

施策　戦略的な秋田米の生産・販売

《施策①》
業務用や特定需要など実需と結びついた米づくりの推進

- マーケットインの視点を重視した秋田米生産販売戦略の推進
  - 秋田米生産・販売戦略推進会議（仮称）の設置による戦略の進捗管理
- 業務用米にも機動的に対応できる米産地の確立
  - ＪＡや農業法人等の分担により、多様なニーズ（定時定量・機動力等）に対し、重層的に対応
- 実需と結びついた新たな米づくりのサポート
  - 小売や中食・外食への販促活動や商品づくり、実需への安定供給に必要な施設整備等を支援

《施策②》
次代を担う秋田米新品種デビューと販売強化

- 秋田米のプライスリーダーとなる品種の選抜と現地実証の実施
  - 新品種の栽培マニュアルの策定、品質基準の設定、産地・生産者の絞り込み
- 地域プレミアム米など売れる商品づくりの推進
  - 「あきたこまち」の知名度を生かし、区分集荷（食味・整粒歩合等）による商品づくり
- 秋田米新品種デビュー対策と全国への発信力強化
  - 新品種ブランド化戦略本部（仮称）の設置、実売に結びつくプロモーションの展開

《施策③》
省力化技術やICT導入による超低コスト稲作経営の展開

- 省力・低コスト技術導入による生産費低減の推進
  - 直播、高密度播種育苗による疎植技術等の導入支援、ＩＣＴを活用した水管理等の効率化

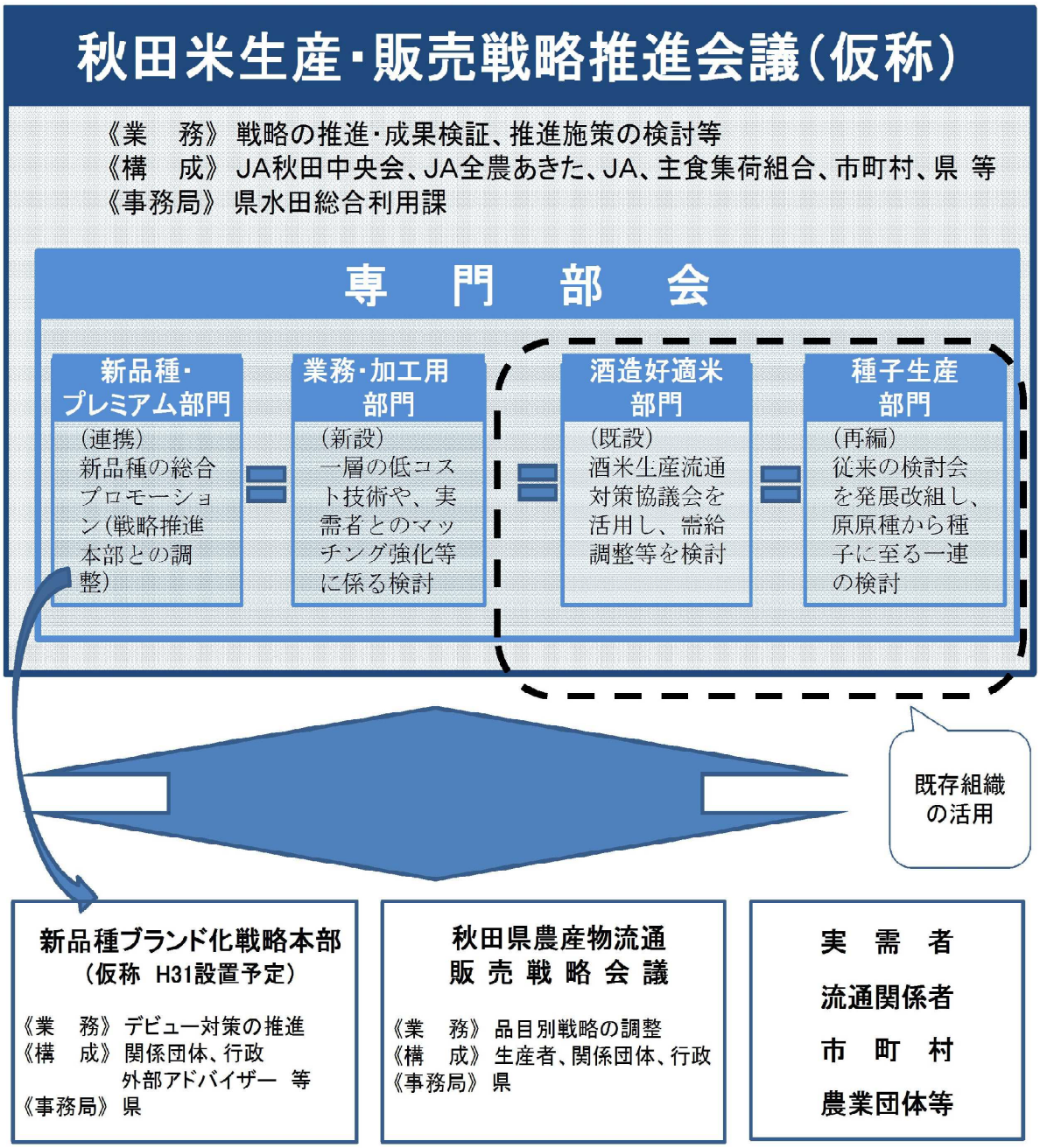
《関連施策》
GAPによる安全・安心対策の強化と環境保全型農業の推進

- 農業生産工程管理（GAP）取得の普及拡大
  - ＪＧＡＰ指導員の育成、県版ＧＡＰ審査会の設置等

《関連施策》
水田フル活用による自給力の向上

- 生産性の高い水田フル活用の推進
  - 大豆や飼料用米、収益性の高い園芸作物等の生産拡大

Ⅶ　戦略の推進体制



新品種ブランド化戦略本部
（仮称　H31設置予定）

《業　務》 デビュー対策の推進
《構　成》 関係団体、行政
　　外部アドバイザー　等
《事務局》 県

秋田県農産物流通
販 売 戦 略 会 議

《業　務》 品目別戦略の調整
《構　成》 生産者、関係団体、行政
《事務局》 県

実　需　者
流通関係者
市　町　村
農業団体等

Ⅷ　戦略の策定経過

1　秋田米生産・販売戦略策定会議の開催等

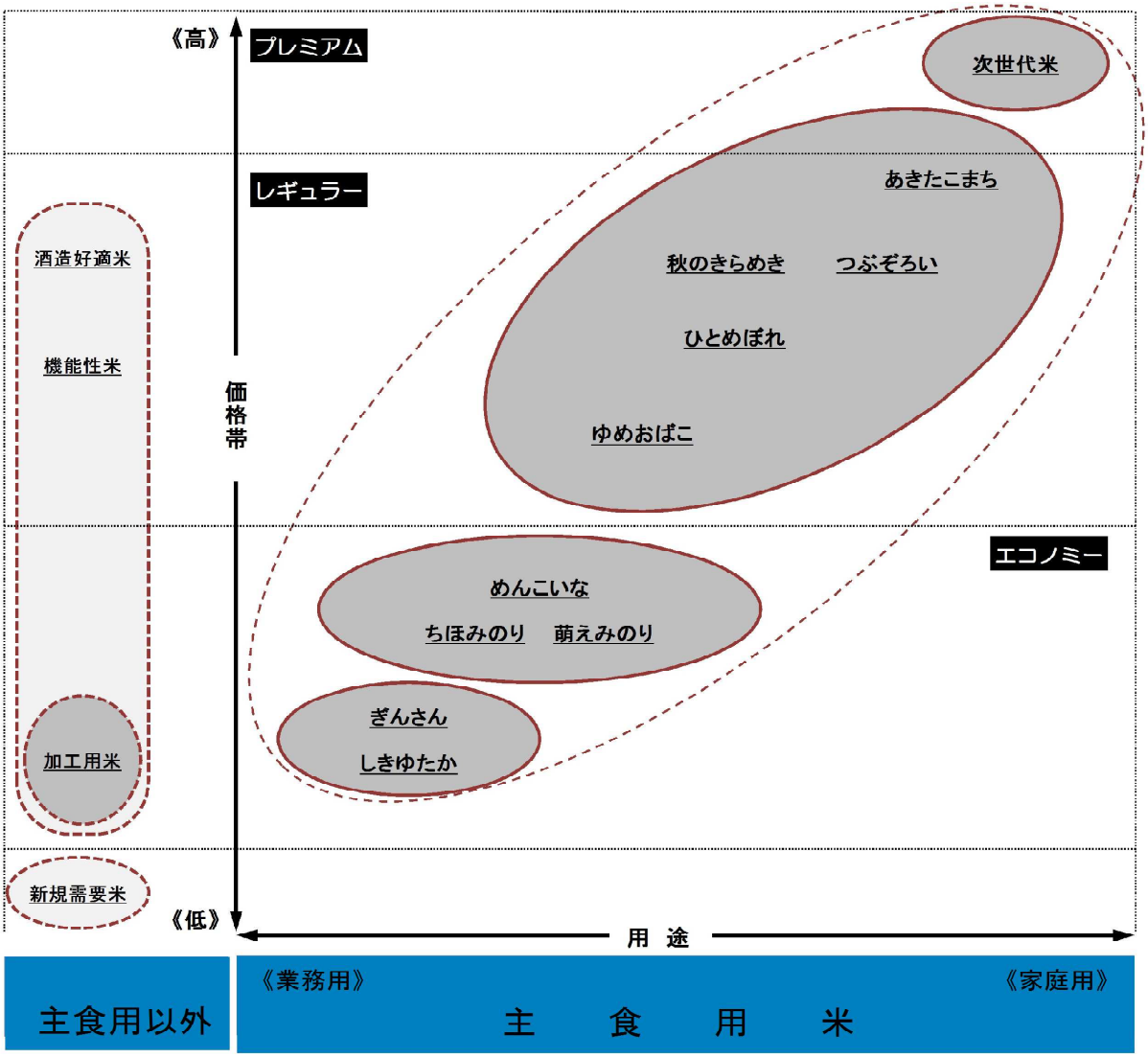
区　　分	期　日	内　容
秋田米生産・販売戦略策定会議		
第１回	H29. 1.30	・新たな秋田米の生産・販売戦略の策定について ・秋田米をめぐる状況について
第２回	H29. 4.25	・秋田米生産・販売戦略の骨子について
第３回	H29. 8. 4	・秋田米生産・販売戦略（素案）について
第４回	H29. 9. 8	・秋田米生産・販売戦略（案）について
県議会農林水産委員会		
平成28年12月議会	H28.12. 9	・新たな秋田米の生産・販売戦略の策定について
〃 29年６月 〃	H29. 6.23	・秋田米生産・販売戦略の検討状況について
〃 29年９月 〃	H29. .	・秋田米生産・販売戦略（案）について

2　秋田米生産・販売戦略策定会議委員

所　　属	職　名	氏　名	備　考
株式会社神明 グループ商品本部 米穀部	米穀部長 課　長	森 脇 暁 安 藤 大 介	 H29～
株式会社吉野家ホールディングス グループ商品本部 商品部　穀物野菜チーム	ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ	久 保 護	
兼松株式会社 穀物油脂部 農産課	課長補佐 担当課長	嶋 崎 英 彦 鈴 木 耕太郎	 H29～
全国農業協同組合連合会 秋田県本部	米穀部長	佐 藤 英 一	
秋田県主食集荷商業協同組合	業務部長	大 門 浩 之	
秋田おばこ農業協同組合	副組合長	大 友 忠	
有限会社 米道ふたつい	代表取締役 取 締 役	畑 山 悦 雄 桜 田 善 仁	 H29～
株式会社 RICE BALL	代表取締役	鈴 木 貴 之	
秋田県立大学 生物資源科学部	准 教 授	中 村 勝 則	
秋田県農林水産部	次　長 次　長	渡 辺 兵 衛 齋 藤 了	 H29～

参考資料

○ 秋田米のポジショニング



◎ 秋田米の品種ラインナップ

出典：ＪＡ全農あきた

あきたこまち

昭和59年に誕生した本県を代表するお米です。
秋田県湯沢市に生まれたとされる、美人の誉れ高い平安時代の歌人「小野小町」にちなみ、秋田で成育した美味しい米として、末永く愛されるように願いを込めて命名されました。

「あきたこまち」のおもな特徴

- その① 透明感・光沢・香りとも優秀で、ツヤツヤと輝くもち肌。安定した品質と収量が魅力です。
- その② 食味ランキング最上位を示す特Aランクに幾度となく選定された美味しさです。
- その③ 粘りがあり、弾力性に富み、もち肌のような繊細で美しい光沢と粘りが特徴です。
- その④ 炊きたてはもちろん、冷めても美味しいので、お弁当やおにぎりなどにもおすすめです。

ひとめぼれ

出会ったとたんにその見た目と美味しさに「ひとめぼれ」するようなお米という意味で命名されました。

「ひとめぼれ」のおもな特徴

- その① 粘り・ツヤ・うまみ・甘み・香りのバランスが良いのが特徴です。
- その② 食味は「ササニシキ」にも勝り良好で、柔らかく冷めても美味しいです。
- その③ 粒張り・光沢があり粘りが強いので、お弁当やおにぎりなどにもおすすめです。
- その④ 冷害等にも強い品種なので、安定した収量が確保できます。

ゆめおばこ

「ゆめ」は、多くの農家より求められている病気や寒さに強く、多収性を求める夢の品種であること、「おばこ」は、産地である秋田の女性をイメージする強い信念と炊飯した時の軟らかさを合わせ持つことから命名されました。

「ゆめおばこ」のおもな特徴

その① 粘りと弾力性があり、粒が大きくきれいな粒立ちです。

その② タンパク質含有量が低いので、炊き上がりふっくらです。

その③ 「丼物」・「炊き込みごはん」など、さまざまなメニューにもピッタリです。

めんこいな

秋田弁で「かわいいな」を意味する「めんけえな」を語源としております。粘りが少ないものの外観と香りがよく、さっぱりした食感が特徴で、多くの方々に可愛がって欲しいという思いから、命名されました。

「めんこいな」のおもな特徴

その① 「あきたこまち」よりも粒が大きくて丸く、香りも優れ、粘りがやや少なめで、さわやかな食感です。

その② しゃり切りが良いため、主食用だけでなく、寿司や丼物にもおすすめです。

その③ 冷めた場合も、固くなりにくく、長時間保温したときの食味も良好です。

その④ 食感や色調など、きりたんぽ等の加工品にも合います。

秋のきらめき

自然の恵み豊かな秋田の山里で、おいしい秋田米をつくりたいという生産者の熱い想いから、秋田県が高冷地でもおいしく育つお米を開発しました。誕生したお米は、秋の爽やかさとお米のきらきらした様子から「秋のきらめき」と命名されました。

「秋のきらめき」のおもな特徴

- その① きらきらとした白さが魅力的です。
- その② 香りが高く、ほどよい粘りがあります。
- その③ 和食によく合い、白飯で食べるのがおすすめです。

つぶぞろい

近年の気候変動に伴い、稲が実る前の高温からの影響を回避するため、長い歳月をかけて品種改良を行い、おいしいお米を生み出しました。誕生したお米は、粒の大きさと秋田米のおいしさから「つぶぞろい」と命名されました。

「つぶぞろい」のおもな特徴

- その① 粒が大きく、柔らかい食感です。
- その② 噛むほどに甘みが増します。 粘り、味、香りのバランスがとれたお米です。
- その③ 白飯、おにぎり、酢飯、炊き込みごはん、丼物など、日本の食卓にぴったりなお米です。

淡雪こまち

秋田県が交配・育成した初の低アミロース系統の品種です。お米（白米）の外観が半透明から透明であることや、ご飯にしたときのふっくら感が、まるで春先に降る淡雪のようであることと、秋田を連想する「こまち」をあわせて「淡雪こまち」と命名されました。

「淡雪こまち」のおもな特徴

- その① 秋田県が交配・育成した「低アミロース」系統の品種です。
- その② うるち米（白米）の外観とは異なり、半透明から透明です。
- その③ もち米とうるち米の中間の特性を持ち、一般のうるち米に比べ、柔らかく粘りが強いです。
- その④ 冷めても、レンジアップしても、食感はもちもちふっくら柔らかいです。

《その他品種》

区分	品種名	特　　徴	採用年
酒造好適米	秋田酒こまち	○ 山田錦並みの醸造特性。 県内の全ての蔵元が原料米として使用。	H15
	美山錦	○ 秋田酒こまちに次ぐ栽培面積の品種。	S55
もち米	たつこもち	○ 極高冷地を除く県内全域で栽培。餅質は良好。	H4
	きぬのはだ	○ 倒伏に強く、収量性が安定。コシはたつこもちより強い。	H4
多収品種	秋田63号	○ 新規需要米（飼料用米・米粉用米等）用の品種。 大粒で多収性（788kg/10a）に特徴。	H23